

## 専門士会コラム

文責：山口怜生

認知症基本法やアルツハイマー月間など、様々なイベントがあり、認知症というものが以前よりもとても身近になり、多くの方に知ってもらえる場になったように感じます。来年度からは、認知症基礎研修も介護で働く上で、無資格の方は必須となり、さらに認知症ケアを牽引していく認知症ケア専門士の役割が高まっていくと感じます。

私は福祉施設で勤務しながら、介護家族でもあります。要介護2の祖母と同居していますが、家族を支援することは、認知症の人を支援することにもつながるなとつくづく感じたことがありました。

ショートステイ利用中、食欲がなく、足の痛みがあり歩けなくなっていたようでした。施設の都合上、泊れる部屋がなく、帰宅しかない状況で、家族送迎で迎えに行くことになりました。日曜日の午後に迎えに行くと、車椅子で施設内から連れて来られ、利用中の様子をそこで初めて知りました。

そのまま家族の車で帰宅したのですが、玄関に上がれず、砂利道で転んで立ち上がれなくなっていました。そこで、家族も立ち上がらせることが出来ず、私が呼ばれました。その時の家族は「なぜ歩けないんだ、このような状況で帰すんだ」と激怒しており認知症の祖母はとても落ち込んだ表情でひたすら下をむいていました。

帰る前に状況がわかっていたり、介護の仕方や家族を支える視点があれば、もしかしたらこのようなことにはならなかったかもしれません。サービス時間内だけで、後はわからないという視点ではなく、自宅ではどういう生活があるのか、認知症の人の取り巻く環境や家族の状況まで把握して、生活を支えることがあるといいなと感じました。

認知症ケア専門士の皆さんは、そのような視点がすでにあると思います。ぜひ他専門職の方々にもそういった視点もあることを伝えていって

ただけたらと思います。